空間情報処理技術

石川 佳治(名古屋大学情報学研究科)



空間情報処理

TIN(triangulated irregular network)に対する空間情報処理技術の開発

● アプリケーション:災害対応(パスコ)に対して協力

主に以下の2項目について開発,実装

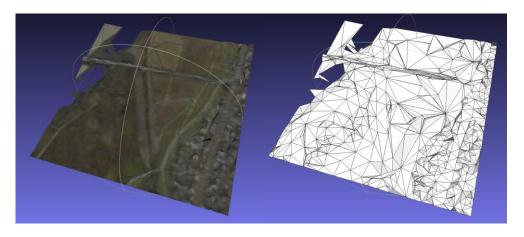
- 空間索引(多次元索引)機能
- TIN差分演算

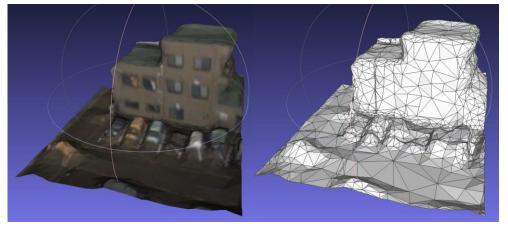


TIN | Triangulated Irregular Network

頂点と辺によって複雑な形状のオブジェクトを表すデータ構造

- 全ての面を三角形のみで表現
- LOD (level of detail) によりオブジェクトの粒度で階層分け
 - 右図上:上位層(広域)のTIN
 - 右図下:下位層(狭域)のTIN
- 一つのTINデータを1タプルとして格納





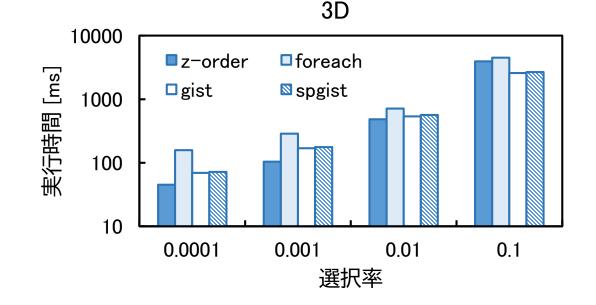


Z-Orderベースの空間索引代替機能の開発

TINの効率的な取り出しのために,

空間充填曲線(z-order curve)により3次元データを1次元化

- 追加の索引は実装せず1次元索引(B+tree, Masstree)の使用を想定
 - c.f., UB-tree [1]
- 選択率の低い問合せに対して 一般的な空間索引(R-tree, kd-tree) と同等以上の性能を確認



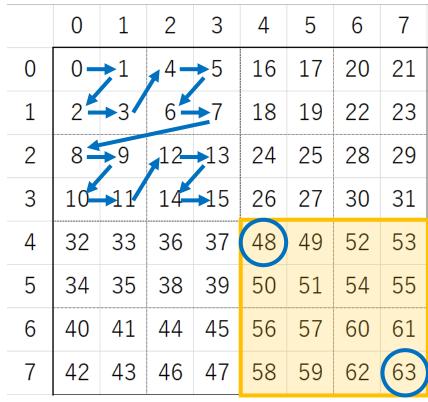
[1] R. Bayer, "The universal B-Tree for multidimensional Indexing: General Concepts," In Proc. WWCA, 1997.



Z-Order Curve

空間充填曲線の1つ

- 多次元データの1次元化が可能
 - 元空間での局所性をおおよそ保持
 - ただし、元空間と変換後とで 位置関係が大きく離れる場合もある
- 構造がシンプルで範囲問合せの適用が容易
 - 元空間での問合せ範囲を z-order上での範囲に変換可能



多次元 範囲



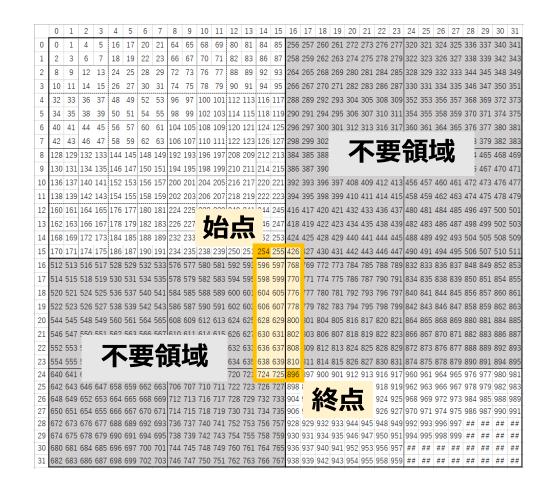
1次元範囲 [48, 63]



課題 Z-Order Curveに基づく範囲問合せ

1次元化による不要な問合せ範囲の発生

- 問合せ範囲が原点をまたがるとき 不要な領域が特に増加
- 次元数が小さくかつ 領域全体が狭い場合は無視できるが, 多次元の広い領域では性能悪化が顕著



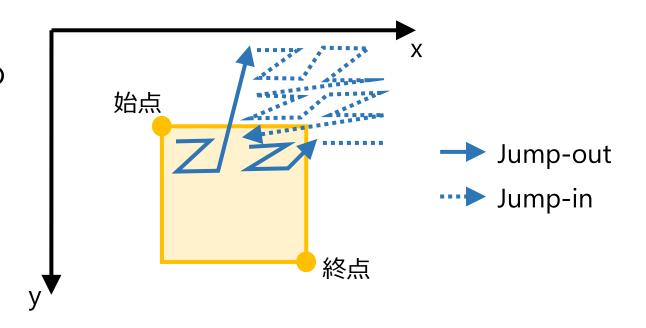


Z-Order範囲の事前分割

問合せ範囲内外への移動を繰り返し,

z-order上での問合せ範囲を分割

- 始点→範囲外への移動→範囲内への移動→...→終点
- 不要な領域へのアクセスを回避
- 分割後の範囲は排他的であるため 並列での読み取りも可能





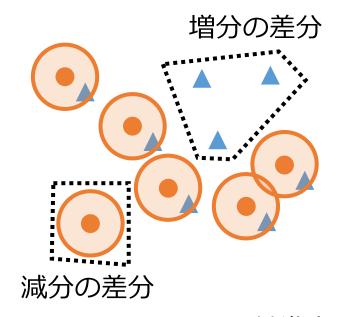
TIN差分演算機能

異なる2時点のTINデータからの差分抽出

● 例) 災害発生前後における3次元モデルの差分抽出

基本は点群データの差分演算として処理

- 基準側の各点の半径 r 以内に比較側の点がないとき, その点を差分点と判定
- 点群の差分を抽出後,元のTIN構造を復元

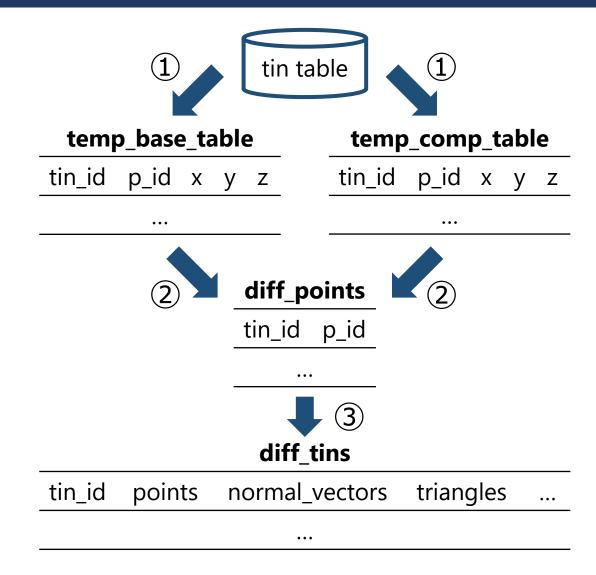


- 基準点群
- ▲ 比較点群
- バッファ



TIN差分演算の流れ

- 1. 対象TINの点群を一時テーブル化
 - 比較側には索引を構築
- 2. 基準・比較側点群の差分を生成
 - 交差部分と全体との差を計算
 - 交差部分の取得に結合を利用
- 3. 差分点群をTINに変換





まとめ

TINデータに対する空間情報処理技術の開発

- Z-orderによる空間索引機能の開発
- TINの差分演算機能の開発

今後の予定

- TIN差分演算機能の改善
 - 基準・比較側点群の位置合わせ,処理性能の改善

